

フットボール協会会長就任



2022年6月26日、日本ラグビーフットボール協会（東京都港区）で同協会の理事会が行われ、理事の土田雅人氏（S56年C科）が秋田県出身者としては初となる、2022年、23年度の会長として推薦を受け、全会一致で承認されました。

日本ラグビーフットボール協会は現在推進中の「中期戦略計画」の遂行のため、会長に求められる資質が二つあると説明しています。一つはビジネスにおける実績と高い知見、もう一つがラグビーそのものに対する深い知見との事です。後者において土田氏は選手として指導者として叶えられるものを全て達成しており、これ以上の適任者はいないと判断されました。

土田新会長は就任の挨拶で、三つの目標を述べられました。

一つは、もう一度ラグビーワールドカップを日本へ、アジアへ招致すること。そのためには代表チームの強化は勿論ですが、日本ラグビー協会が世界ナンバーワンの協会になる事、誇れる協会になる事、世界と対等に仕事ができる協会になる事を強く願っています。二つ目は、ラグビーワールドカップで男女共にベスト4以上を狙えるチームを作る事です。三つめには、ラグビー人口を増やしていきたいと考えています。小、中学生のプレーヤーは増えていますが、高校生や社会人は減っています。女子は伸びていますが、全体的な競技者数としてはまだまだ少ない現状です。三支部協会、都道府県協会と手を組んで一人でも多くの子供たちがラグビーをできる環境を整備し、指導者はもちろん、プレーヤーを支えるご家族を含めた、ラグビーファミリー全体でプレーヤーを支えていけるよう、協会が中心となって取り組んでまいります。

皆さまと共に、世界に誇れる日本代表チーム、日本ラグビー協会となれますよう頑張ってください。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。（挨拶文抜粋）

在校生・卒業生諸氏の皆様にとっても、今年一番の明るいニュースとなったことと思います。土田会長のご活躍に期待しましょう。



「さあ、もういちど花園へ」 第1回マスターズ花園 開催

2022年10月9日、ラグビーの聖地花園ラグビー場を舞台に、高校ラグビーOBチームが熱い戦いを繰り広げるマスターズ世代の交流大会が行われました。

我が秋田工業高校ラグビー部OBチームもエントリーし、40代から60代に渡る数十名が地元秋田や関東などから駆け付けました。

高校時代、花園出場の夢に青春を捧げたラグーも、聖地花園で優勝を目指し奮闘したラグーも共に花園ラグビー場第1グラウンドでプレーを繰り広げました。

伝統の紫白のジャージに身を包んだ秋田工業高校OBチームは、滋賀県の膳所高校OBチームと対戦しました。膳所高校チームには出場者最高齢の御年91歳の方もプレーされ、年齢を感じさせない動きをされていました。

出場された皆さんは年齢別に20分ハーフで前半選手を入れ替え、普段から体を鍛えている方、いない方ともに、寄る年波には勝てずという状態でしたが、“ラグビー愛”精神で、また一つ花園での思い出を胸に刻んだことでしょう。

鈴木 信裕（S56K科）

